



## 農産物市場研究ノ必要ヲ論ズ

高岡, 熊雄

---

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 19(6):943-950

(Issue Date)

1915-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052447>



# 農產物市場研究ノ必要ヲ論ズ

東北農科大學教授

法學博士 高 岡 熊 雄

近時國民經濟及世界經濟ノ發展ニ伴ヒ商工業勃興スルヤ、我が國家ノ成立上及國民經濟ノ發展上ニ於ケル農業ノ相對的必要ノ程度ハ稍減退セシガ如シト雖、尙農業ハ依然トシテ最モ重要ナル生產業ノ一タルヲ失ハズ蓋シ將來モ亦然ラン、否ナ然ラシメザル可カラザルナリ。從來國家及先覺者ガ常ニ斯業ノ進歩發達ヲ計ルガ爲メ大ニ力ヲ盡セシハ宜ナリト謂ツ可シ、而シテ其ノ效果ノ見ルニ足ル可キモノ亦決シテ少ナシトセズ、土地ノ耕耘及改良ヨリ作物ノ品種施肥栽培等ニ至ルマデ何レモ皆ナ改良セラレ其ノ結果農作物ノ品質ハ善良トナリ、生産數量ハ増加セリ、畜産ニ至リテモ亦然リトス、我國農業界ノ現狀ヲ以テ之ヲ維新當時ノ有様ニ對照スレバ實ニ顯著ナル進歩發展ヲナセシコトハ恐クハ何人ト雖之ヲ否定スルコト能ハザラン、然レドモ更ニ一步ヲ進メテ農業界進歩ノ内情ヲ洞察スレバ是レ主

トシテ農業ノ技術的方面ノ改良ナルヲ知ル、耕地一反歩ヨリ生産スル植產物ノ數量ヤ、家畜一頭ヨリ生産スル乳肉ノ量ハ増加セリト雖、農業者ノ經濟的境遇ハ依然トシテ舊套ヲ脱セズト云ヘバ或ハ酷評ナランモ、少クモ經濟的方面ノ改良ハ技術的方面ノ改良ニ比スべくモアラザルナリ、是レ世人ガ從來農業ノ改良ト云ヘバ主トシテ技術的方面ノ改良ニ重キヲ置キテ此レニ力ヲ盡シ他ヲ多ク顧ミザリシ間ニ一般社會ノ變遷ニ伴ヒ農業界ノ形勢一變シタルガ爲メナリ。

我國農業經營ノ規模ハ極メテ狭小ニシテ今日ト雖二町歩以下ノ耕地ヲ經營スルモノハ全農業者ノ九割以上ヲ占ムル有様ナリ、從前農業者ノ數尙比較的多ク交通ノ便未ダ開ケズ文明ノ程度尙幼稚ニシテ他ノ生産業未ダ興起セザリシ時代ニ於テハ農業經營ノ根本義ハ自給自足ニ在リ、農業者ガ日常需要スルモノハ殆ンド皆自カラ生産シ自カラ供給シ以テ其ノ貧弱ナル慾望ヲ満足セシメタリ、斯クノ如キ時代ニ在テハ農業ノ技術ニ關スル改良ヲ行ヒ其ノ生産額ヲ増加セシムルトキハ農業者ハヨリ多クノ收入ヲ得、ヨリ多クノ慾望ヲ満足セシムルヲ得テ以テ彼等ノ經濟的境遇ヲモ併セテ改良スルヲ得ルナリ、又實際之ヲ改良シ得タリシナリ。

然ルニ我國ノ國民經濟ハ時勢ノ進歩ト共ニ漸次發達シ、農業以外ニ種々ナル生産業ハ益隆盛ヲ極メ都市ニ住スルモノ、數次第二加ハリ、非農業者ノ農產物ニ對スル需要増加シ農業者ハ自己ノ慾望ヲ満足セシムル以外ニ是等諸階級ニ屬スルモノ、需要ニ應ズルノ目的ヲ以テ農產物ヲ生産セザル可カラザル立場トナリ、將來益此種ノ需要増加シ生産物ノ品質ヲ改善シ其ノ數量ノ増加ヲ計ル必要ニ迫レリ、而シテ農業者モ亦從前自カラ生産シテ以テ自己ノ慾望ヲ満足セシメシモノヨリハ品質ハ良好ニシテ而カモ價格ノ比較的低廉ナルモノヲ他ノ生産業者ヨリ供給セラル、ヲ以テ能ク之ヲ利用スルガ爲メニモ、自己ノ生産物ト他ノ生産物ト互ニ相交換セザル可カラザルニ至リ、農業經營ノ目的ハ茲ニ一變セリ始メハ物ト物トヲ互ニ交換シテ能ク此種ノ必要ニ應ゼシト雖、國民經濟ノ進歩スルニ從ヒ遂ニハ寒村僻地ニ至ルマデ交換ノ仲介物タル貨幣ヲ使用スル貨幣經濟ノ時代ニ入り更ニ進ンデハ盛ニ信用ヲモ利用スルニ至リ、殊ニ嘗テハ米納ナリシ地租ガ金納ト改マリシ以來農業者ハ生産物ノ一部ヲ必ズ他ニ販賣シテ以テ其ノ用ヲ便ゼザル可カラザルニ至レリ。

斯クノ如ク我國ノ農業經營ハ元ト自給自足ニシテ外界ト相接觸スルノ必要極メテ少ナキ孤立經濟ノ下ニアリシガ、我ガ國民經濟及世界經濟ノ發展ニ伴ヒ遂ニ收益ヲ舉グルヲ以テ主ナル目的トナス一種ノ營利的企業ト化シ、農業者ハ農產物ヲ生産スル以外ニ自己ノ生産物ヲ他ニ販賣シ又需要品ヲ購求スル上ニ於テ從前知ラザリシ注意ト技術トヲ發揮セザル可カラザル立場トナレリ。唯現今尙我國ニ於テハ小農ノ經濟ニ至大ノ關係ヲ有スル小作料ガ水田ニ於テハ殆ンド皆米納制ナルヲ以テ農業者殊ニ小農家ハ比較的ニ營利的才能ヲ要スルコト未ダ多カラズト雖、他日若シ此ノ制度改マリテ小作料ヲ以テ金納トナスノ時代ニ際會センカ、一層貨幣ノ需要ヲ増加シ農業經營ハ更ニ一層營利ヲ目的トスル企業トナルヤ明カナリ。

上來陳述セル如ク我國ノ農業者ハ今日ニテハ既ニ單ニ自己ノ農場ニ於テ生産シ得ベキモノ、ミヲ生産スルニアラズ、市場ニ販賣シ得ベキモノヲ生産セザル可カラズ、技術上ヨリ見テ最良ナリトナスモノ、ミヲ生産スルニアラズシテ、最モ有利的ニ販賣シ得ベキモノヲ生産セザル可カラズ、故ヲ以テ穀菽ヲ栽培シ家畜ヲ使

用シ以テ其生産物ヲ穫タルノミニテハ經營上彼等ノ活動ハ尙完結セズ更ニ進ン  
デ是等生産物ヲ最有利的ニ需要者ニ供給セザル可カラズ交通ノ便未ダ開ケズ市  
場尙狹少ナル間ハ農業者ハ直接消費者ニ自己ノ生産物ヲ供給シ得ベシト雖市場  
ノ膨脹スルニ從ヒ生産者ト消費者トハ互ニ相隔リ遂ニ兩者ノ中間ニ立ツテ之ガ  
媒介ノ勞ヲ取レル一階級即チ商人ナルモノヲ生ジ農業者ハ物資ノ媒介ヲ專業ト  
スル此種ノ階級ト取引セザル可カラズ然ルニ農業者ハ農業ハ性質トシテ單一  
種ノ作物ノミヲ栽培スル能ハズ單一業ニノミ專ラナル能ハズ近代産業發展ノ  
主因タル分業モ廣ク農業界ニ行ハレズ能ク天然ノ狀況ヲ利用シテ以テ種々ナル  
生産ヲ爲サバ爾可カラザルヲ以テ生産物ノ種類ハ極メテ多シ之ニ反シテ農業者  
ト取引ヲナス相手ハ多ク專業者ナリ例之米穀ノ買入ヲナスモノハ米穀商ニシテ  
彼等ハ米穀ヲ要スルモ肉類ヲ要セズ肉商ハ肉ヲ要スルモ米穀ノ取引ヲ爲サバ  
ナリ斯ク専門ノ取引ヲナスモノハ各其ノ特殊市場ノ事情ニ精通スルヲ以テ種々  
難多ナル生産ヲナス農業者ハ之ニ對シテ取引上常ニ不利ナル地位ニ立タザル可  
カラズ加フルニ交通機關ノ發達ハ海外諸國ニ於ケル農産物ノ來ツテ我が國ノ農

業者ト同一市場ニ於テ輸贏ヲ相爭フアリ、今日ノ農業者ノ奮闘努力ハ決シテ昔日ノ比ニアラズ、常ニ能ク内外市場ノ狀況ヲ洞察シ如何ナル農業經營法ヲ行フベキヤ生産物ノ販賣ハ如何ナル手續ニヨルヲ利トスベキヤ、如何ナル組織ノ下ニ之ヲ行フベキヤ、如何ナル價格ヲ以テ之ヲ取引スベキヤ如何ナル市場ニ之ヲ輸送スベキヤ、其ノ輸送方法ハ如何ニスベキヤ、如何ナル時期ニ之ヲ手離スベキヤ、將來價格ハ騰貴スベキカ將タ低落スベキヤ假令價格ハ騰貴スト雖其ノ時期マデ生産物ヲ貯藏シ之ニ要スル經費即チ利子倉敷料等ヲ償フテ尙餘リアリ得ベキヤ否ヤ等、幾多ノ問題ハ彼等ノ面前ニ提供セラレン、是等ノ諸問題ヲ能ク考慮シ能ク解決シテ後始メテ能ク有利的ニ農產物ノ取引ヲ爲シ得ベキナリ、一箇年乃至數年ニ亘レル農業者ノ辛苦ニ對スル報酬ノ多寡如何ハ實ニ生産物ノ取引ヲナスニ際シ最後ノ手打ヲナス一瞬間ニ決定スルモノナリ、現代農業者ノ働キハ従前ノ如ク簡單ナラズ、頗ル複雑トナリ又投機的性質ヲ帶ビ來レリ、彼等ノ爲ス仕事ハ單ニ手足ノ勞働ニアラズシテ寧ロ頭腦ノ働トナレリ。

故ヲ以テ現時ノ農業界ヲ改良シ農民ノ境遇ヲ上進シ以テ能ク他ノ生産業者ト

相對立シテ其ノ地位ヲ保タシメント欲セバ、獨リ農業ノ技術的方面ノ改良ノミヲ以テハ決シテ其ノ目的ヲ達シ難シ、須ラク更ニ進ンデ彼等ノ經濟的方面ニ關スル研究ヲナシ以テ之ニ對スル適切ナル施設ヲ爲サル可カラズ、世ニ農業經營學ナルモノアリ、其ノ名稱ノ示ス如ク農業ノ經營ニ關スル研究ヲ爲スト雖今日マデノ研究ノ狀況ヲ見レバ主トシテ農場ノ組織經營ニ關スル研究ニシテ適當ナル經營組織ノ下ニ生産セシモノヲ更ニ進ンデ外界ト取引スル手段方法及之ニ對スル施設ニ關シテハ未ダ重キヲ置カザルガ如シ、論者或ハ云ハン、農產物ノ賣買ハ一ノ商行爲ナリ、商行爲ニ關スル研究ハ商業學ノ範圍ニ屬シ其結果見ルニ足ルベキモノアルニアラズヤト、然リ商業學ハ物資ノ集散取引ニ關スル研究ヲナスト雖是レ主トシテ仲介者タル商業者ノ立場ヨリシテ之ヲ觀察スルモノニシテ生産者タル農業者ノ立場ヨリ農產物ノ取引行爲ヲ研究スルトハ其間多少趣ヲ異ニスル所アリ、極端ニ言ヘバ商業者ハ生産者ヨリ成ル可ク低廉ニ物資ヲ仕入レントスルニ反シ農業者タル生産者ノ取引行爲ハ相手ハ商人タルト將タ消費者タルトヲ問ハズ成ル可ク高價ニ生産物ヲ販賣セントシ、取引行爲上互ニ立脚點ヲ異ニシ彼等ノ直接感ズル利害ハ必ズシモ常ニ同一ナラズ、否ナ、寧ロ相反スル場合却ツテ多キヤノ感

アリ、今日マデ此種ノ部門ニ關スル科學的研究ノ兎角等閑ニ附セラレシハ獨リ本邦學界ニ於ケル特殊ノ現象ニアラズ、泰西ノ學界ニ於テモ亦然リトス、嘗テハレ農科大學ニ於テメンデル博士(Mendel)ガ農產商品論ナル講義ヲ開始セシトキ聽講生少數ナリシ爲メ遂ニ之ヲ中止スルノ已ムナキニ至リシコトアリシト聞ク、又昨年夏季學期ニ於ケル獨埃瑞三國ノ諸大學講義題目ヲ見ルニノイパウエル(Nebauer)ガボツベルスドルフ農科大學ニ於テ僅カニ一週一時間又オステルマイヤー(Ostermeyer)ガヴヰーン農科大學ニ於テ一週二時間嘗テメンデル博士ガ試ミタルト同一ノ題目ノ下ニ講義ヲナセルアルノミ、亦以テ此種ノ研究ノ未ダ盛ナラザルヲ推知スルニ足ル、斯クノ如キハ蓋シ學界ノ一缺點ト謂ハザル可カラズ、假令生産者タル農業者ノ立場ヨリ見タル農產物市場ニ關スル科學的研究ヲナスニハ能ク農業界ノ實情ニ精通スベキハ勿論ノ事、農學商業學經濟學等種々ナル科學ノ助ヲ藉ルニアラズンバ能ク其ノ目的ヲ達スル能ハザルヲ以テ、其ノ事決シテ容易ナラズト雖、此種ノ研究ハ特ニ我國ニ於テハ適切ナル時代的要求ニモアレバ吾人ハ尙更之ガ研究ノ廣ク行ハレンコトヲ冀望シテ已マザル所ナリ。(大正四、九、二〇)